

令和7年度 第4回 追分小学校運営協議会 会議録（要点記録）

- 1 開催日時 令和8年2月16日（月） 13時30分から15時10分まで
- 2 開催場所 浜松市立追分小学校 会議室
- 3 出席委員 小山 正博、松本 依子、内山 丈夫、村上 美代子、今泉 るり子、
野田 昌宏、齋藤 泰司、青嶋 祐介
- 4 欠席委員 なし
- 5 オブザーバー 横市 佳音（西部協働センター）
- 6 学 校 澤田 直子（校長）、大渡 和正（教頭）、池野 紀子（教務主任）
山田 公子（CSディレクター）
- 7 教育委員会 牧野 知子（学校・地域連携課）、大橋 健一（教育センター）、
前田 浩平（教育センター）
- 8 傍聴者 なし
- 9 会議録作成者 CSディレクター 山田 公子
- 10 議長の選出

司会から、議長の選出について委員に確認を行い、小山会長より松本副会長を推挙する旨の発言があり、全員異議なくこれを承認した。

11 協議事項

- （1） 学校関係者評価について
- （2） 学校運営協議会の自己評価について
- （3） 来年度の学校運営の基本方針の説明について
- （4） 教育課程柔軟化サキドリ指定校事業について
- （5） 夢育やらまいか事業の報告について

12 会議記録

司会の大渡教頭から、委員総数8人のうち7人の出席があり、過半数に達しているため、会議が成立している旨の報告があった。なお、1人が途中参加し計8人となったが、1人が途中退席となり7人となった。

（1）学校関係者評価について（「いじめ防止基本方針について」含む）

議長の指示により、池野教務主任より、別紙資料に基づき、学校評価アンケートの結果報告があった。第1回学校運営協議会において承認された学校運営の基本方針に基づき教育活動を行ってきたことにおける、児童・保護者・教員へのアンケートである。これをふまえ、やさしさ・かしこさ・たくましさ・いじめ防止基本方針の観点より、それぞれ成果・課題・改善点について説明があった。結果と説明を受け、よりよい学校づくりを目指すために必要な改善点や持続すべき点について話し合われ、委員からは以下の発言があった。

① やさしさ

- ・何度か学校ボランティア（追分応援団）に参加するうち、通りかかるとあいさつしてくれる、手を振ってくれる子が増えた。昨年からの課題であった、年間を通してのあいさつの取り組み

みの成果がでてきているように感じる。(松本議長)

② かしこさ

- ・いずれの項目も肯定が大半で、評価としては概ね良好である。「そう思う」「だいたいそう思う」の差を分析し、その改善策を話し合っ、来年度からの自己調整学習への結びつきも含め、役立ててほしい。(野田委員)
- ・学習において、子供同士の中で学びを牽引、あるいは軌道修正を促す役割を担うリーダーが存在してもいいのではないか。全体でまとまっているよさだけでなく、子供同士で補い合う姿がさらに見られることが期待される。学校、家庭、地域が連携し、その方向につながる指導も行うことが望ましい。(小山会長)

③ たくましさ

- ・持久走記録会では、自ら目標を設定し、その達成に向けて努力を重ね、さらに次の目標へとつなげていく姿が見られた。小さくても目標を設定し、努力を続けることが、周囲からの評価だけでなく、自己肯定感の向上にもつながる。これは、社会に出てからも大切な精神である。(村上委員)
- ・積み重ねた努力は本当に大切である。諦めず、努力する「たくましさ」につながる。(松本議長)
- ・なりたい自分を実現するためにどうするか、プロデュースする力の育成も大切である。興味や関心のある事柄に対し、現在のゴールのためには何が必要か、セルフマネジメントの入り口となるよう、家庭や学校で意識づけできる環境を整えることが望ましい。(青嶋委員)
- ・アンケート結果より、子供の自己肯定感が高いと読み取れる。夢や目標がもてない人も多い中、高い水準の結果が示されたことは意義深い。夢と現実に向き合った時、自分を見つめ直すことも必要であり、そんな中で少しでも気持ちが上向けば、様々なことに前向きにもなれる。(今泉委員)

④ いじめ防止基本方針に基づく取り組み

- ・チーム担任制で、たくさんの大人の目が行き届き、子供一人一人のよさを取り入れて生かせるのではないか。自己調整力と言葉にすると難しいが、興味などを生かす方向も考えながら、学校に行くのが楽しいと味わえる学校生活になることを望んでいる。(今泉委員)

(2) 学校運営協議会の自己評価について

議長の指示により、小山会長から、別紙資料に基づき自己評価について報告があった。

(3) 令和8年度の学校運営の基本方針の概要説明について

議長の指示により、校長から、別紙資料に基づき令和8年度の学校運営の基本方針について説明があった。やさしさ・かしこさ・たくましさの3つの柱はそのままに、「自分を生きる」というテーマを掲げる。同時にウェルビーイングの向上を目指していく。また、限られた時間を最大化する時間の活用と、教職員と子供たちを支えるチーム追分の強化という構想を実現させていく。

(4) 教育課程柔軟化サキドリ指定校事業について

議長の指示により、教育センター前田氏から、次年度より取り組まれる令和8年度及び令和9年度の教育課程における調整授業時数制度について説明があった。すべての都道府県で実施され、学校の教育計画で新たに導入する制度の先行実施及び検証である。各学校の判断で授業時数を調整し、「裁量的な時間」に充てることのできる制度である。学校と教育センターが協働して、よりよい学校づくりを目指していく。

説明を受け、委員からは以下の発言があった。

- ・教える→学ぶに変革することで、コンパクトにいい成果を出せるか、子供たちがついていけるのか注目していきたい。そのためにも研修が大切である。放課後の時間確保は先生方にとって、研究等、時間を有効に使うことができる。(野田委員)
- ・40分授業で、基礎学力の定着具合や、話し合いが短くなる事により到達点が低くなるのではという懸念がある。授業の展開の仕方など、先生方の対応が大変ではないか。一方で、子供たちは放課後に時間が生まれ、興味のある分野に時間を注げる。(青嶋委員)
- ・研究など、先生方の負担が増えないか心配である。授業においては、子供たちが使い慣れているタブレットをうまく組み込んで活用していくことが重要である。(内山委員)
- ・サキドリの取り組みであるため、一から生み出し、形にしていく苦労もあるだろうが、その先に子供たちの学びにつながる実感があれば、やりがいになるという思いで取り組んでいく。同時に保護者や地域の方々にも御協力をお願いできればと考えている。(澤田校長)
- ・先生同士のコミュニケーションがしっかりとれているとのことなので、それを生かしてほしい。授業では、先生が導入で投げかけ、子供の中で話し合いが深まっていくことを期待している。(松本議長)
- ・先行して実施した東京の学校では、学力低下は見られず、教職員の残業も減少している例もある。初めての取り組みであるため、教育委員会も学校と一体となり、取り組んでいく(教育センター前田氏)

<その他報告事項等>

学校支援コーディネーターの今泉委員より、今年度支援活動の状況や、来年度の活動予定が報告された。

司会から、次回会議は、2026年4月23日(木)午後1時20分から追分小学校会議室で開催する旨の報告があった。